

## 森の「アト」

森林や川沿いを歩いていると、野生動物(主に哺乳類)のフンを見かけることはありませんか? 彩り豊かな自然と同じように、野生動物のフンにも多様性があります。フンを知ることで自然への理解が深まることに加えて、時には野外活動を安全に行うことにもつながります。

今回は主に、フンの内容物を判別することで「あきる野の森の匂」を紹介します。



フンの分解者  
オオセンチコガネ



### ヒメコウゾ(6月中旬~)

タヌキのフンにハンバーガーのバンズに似た種子(1.5mm程度)を発見。アリが種子を巣に運んでいた。お目当ては種子の周りに残る果肉♪タヌキはフンをする場所が決まっているため、フン場にはまとまったフンがある。フン虫が活発な夏はフンの姿形は無くなり、昨年食べた実の種子が芽吹いていることが多い。



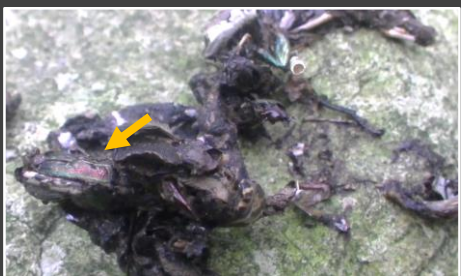
### クマヤナギの仲間(7月上旬~)

ホンドテンのフンに長楕円形で中央に筋がある種子(4.5mm程度)を発見。果実は、翌年の夏に熟すので花と実を一緒に確認することができる。テンは、道の真ん中や石の上など目立つ所にフンをする。よく目にするため、その年の果実が利用される時期の変化を知る手がかりとなる。



### ウワミズザクラ(7月中旬~)

ニホンザルのフンに涙形の種子(4.5mm程度)を発見。果実の種数が少なくなる夏、多くの野生動物に人気だが生育場所や年によって果実の実りが激しく変動する印象。サルはどこでもフンをするので、目に付きやすい。



### 昆虫類、甲殻類

ニホンイタチのフンにヤマトタマムシを発見。7~8月は、多くの野生動物にとって森で得られる果実の種数が3~4月と同様に少ない。そのため、草食動物以外の哺乳類のフンには、昆虫類や甲殻類等の動物性の内容物が目立つ。

### 人間が捨てたゴミ

イタチのフンの内容物にゴミを発見。ゴミは、野生動物にとって命を脅かす物となったり、味を覚えた野生動物が近隣の住民に危険を及ぼしたりする可能性があります。森や川を訪れる際、ゴミや残飯は持ち帰りましょう。自然に癒された分だけ、自然を大切に!



果実の種数が少ない7月の森。野生動物を人里へ誘引しないための対策(果実や野菜を収穫する、野外にゴミを放置しない、電気柵で囲う、餌付けをしない等)にご協力をお願いします。



## 森の「アレ???」



オオトリノフンダマシ(クモ)



オジロアシナガゾウムシ



オナガアゲハの幼虫



オカモトゲエダシャクの幼虫(5月)

7月の森で、フンらしき生き物を発見。近づいて観察すると、じっと動かなかったり、手足を引っ込めて丸まったり、体を曲げたり…鳥のフンに変身?!フンに似せることで、捕食者から身を守っているのでしょうか。

見つけるとクスッと笑ってしまうけど、自然の不思議を深く感じる「フン+なりすまし=フンスマシ」?!夏の森歩きに、鳥のフンだけではなく、何かを真似る生き物探しもいかかでしょうか?

※オカモトゲエダシャクの幼虫は、この時季見ることはできません…🐞そっくりなフンの方を見つけたので紹介しました。

## 夏の「危」

ハチの巣、かぶれる植物、マムシやヤマカガシ、大型哺乳類の気配、急変する天候…多様な生命の息吹が溢れる夏の森は、五感を働かせて安全に活動しましょう!そして、野外活動前の準備は更に重要です。訪れる場所や天候の確認、緊急時の避難場所、服装や装備等を確認し「自分の安全は自分で守る」ための準備を整えましょう。感染症対策を忘れず、自然や訪れる地域に配慮した野外活動を心がけていただきたいと思います。



慌てないために準備しよう



積乱雲接近中!急に冷たい風が吹いたり、雨の匂いがしたら要注意。あっという間に土砂降りになる場合があるので、活動中も空をよく観察しましょう。



葉の裏に巣を作るアシナガバチの仲間。道にせり出した植物に触る時は、必ず葉裏を確認しましょう。



安全のために確認しよう



ニホンマムシ。暑い時季は、水辺や森の涼しい所に潜んでいることが多い。人が休憩したくなる涼しい場所をよく確認しましょう。



ヤマウルシ。日の当たる尾根などでよく見る。敏感な人は、ウルシの下を通るだけでもかぶれてしまうことがあるので、気をつけましょう。